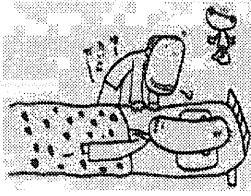


介護保険の受付が  
はじまりました

四十才以上の人は全員保険料を支払います。

六十五才以上の人は約二千五百円位(市、町、村により違う)を年金から差引かれるが、年金のない人は市町村に納入します。

四十才〜六十五才の人は国保又は社保の保険料と同時に納入します。



介護保険でサービスの受けられる人は、

①六十五才以上で体の具合が悪く、日常生活を行う上で介護を必要とする人

②四十才〜六十五才の人で、脳卒中、初老期痴呆など老化に伴って生じたもので介護を必要とする人

介護保険でサービスを受けるには

①申込み  
市、町、村の福祉担当の窓口や訪問看護ステーションなどにいるケアマネージャーにサービスを受けたいこ

とを申し込みます。

②ケアマネージャーが訪問調査をし、主治医が意見書を出します。

③ケアマネージャーが訪問し、本人の受けられる介護サービスの程度が決まります。要介護認定

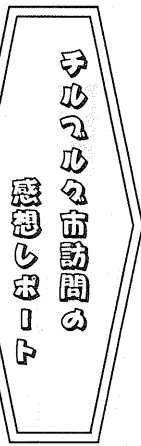
④ケアプランをつくります。

受けられる介護サービスの程度に合わせて、入浴サービスやホームヘルプサービスなど実際のサービスを決めます。

⑤介護サービスが行われます。

みなおし

六ヶ月ごとにみなおしがあります。



障害なんて…

加藤弘美

私の訪れたチルブルグ市(オランダ)は、「障害があることを忘れさせる」そんな場所だった。

それは福祉先進国にあり、平らな国土、気候にも恵まれているつまり物理的にバリアフリーだからという

だけではない。

驚いた事にここでは『バリアフリー』という言葉は一般化していなかった。だからそれを説明するのには私達はひと苦労した。『障害の有無にかかわらずあくまでフェアに、そして人間として人生を楽しんで生きる。』

またそれがふつうである』という考え方が私はすごく気に入ったのである。



そういう場所だから、私はなんのこだわりもなくチルブルグの人とふれあい、それを楽しむことが出来た。

たとえ設備面で車椅子での見学は断念せざるを得ない場所があったとしてもそれは人の気持ちで十分カバーすることが出来た。なにしろこの当事者の私が「障害のあることを悲しく感じる事が一度もなかった」というのだから…。

それが日本に帰ってきたとたん、料理屋の2階それもお座敷での解団式。『畳』が日本の文化であることは分かっているが私の生活には合わないといつくづく感じさせられるほど大変であった。

私がチルブルグに行つて一番欠けていると実感したのは語学力だった。

た。

オランダ人はほとんどの人がオランダ語の他に英語をとんでも上手に喋る。それなのに簡単な英語しか話せない聞き取れない自分が悔しかった。そういうもの実はその反面、初めて与えられた自分の英語力を試す場を楽しんでいたのだ。

中学・高校で習った知識を総動員して、ジェスチャー混じりのつたない英語で通じ合えたのが、自分でも驚きで嬉しかった。でも全てを理解するのはとても無理だった。

そこで決心したのが英会話の勉強を始める事。日本語もろくに喋れない私がある。いつかまた彼らに会いたい、その時にはもつと心を通い合わせたいと思うから、それならやるしかなかった。やつと一段落した今、NHKの『はじめよう英会話』のテキストを買ってきて意気込んでいる。

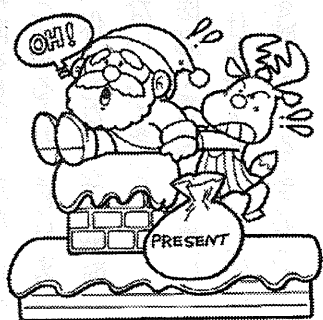
もうひとつ感じた事は音楽のすばらしさ。ホームステイ先のポリーンとも音楽という共通の趣味によつて強くむすびつけられた。

CDプレイヤーから絶やすことなく流れてくる音楽は「今、自分は日本から見ても地球の裏側にいるんだ」ということを少しも感じさせなかった。

「好きなことに出会えて、それを楽しめる人生は最高の幸せ」で、障害…はとるに足らないことであると強く感じた。

みなさんの質問や投稿をお待ちしております。

☆受付けからのお願い  
月初めには必ず保険証を  
受付けにお出し下さい。  
診療券は毎回お持ち下さい。



11月・12月の休診日

(日曜・祭日)

水曜・土曜・第一火曜午後)

12月29日(水)～

1月3日(月)

1月4日(火)午後

1月11日(火)午後

休診